

～授業を終えて～

《成果》

授業の導入でアンケートを活用したことが非常に効果的で、児童が題材と日常を結び付けて考えるきっかけとなった。児童の本音を引き出し、傍観者の心理や行動の変化を促すことができた点も大きな成果である。具体的なアンケート結果をもとに多面的・多角的に考える力が育まれ、自分ごととして捉える姿勢が見られた。また、適切な時間配分やワークシートの工夫により、児童が主体的に学び、よりよいクラスづくりについて深く考えることができた。アンケートを活用した授業により、児童の道徳的価値の獲得につながった。

《課題》

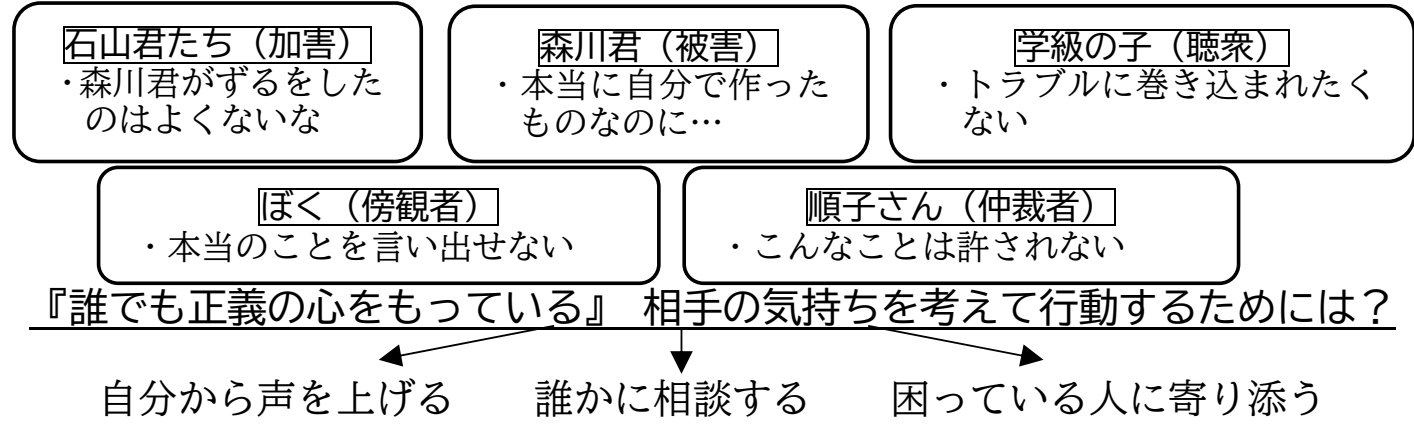
授業では、傍観者の心理や葛藤に焦点を当て、仲裁者へと行動を変える要因を考えさせることが重要である。加えて、いじめの構造や加害者の心理を理解し、児童の認識とのズレを確認しながら指導を工夫する必要がある。問い返しや場面の焦点化を適切に行い、児童の思考を深めることで、公平・公正・社会正義といった価値を共有できるようにする。学習の目的を明確にし、児童がより主体的に考え行動できる授業を目指していく。



《他の展開例①（いじめの対処に重点を置いて）》

「加害者・被害者・傍観者・観衆・仲裁者」という立場を明確にした展開
いじめの定義を提示し、石山君たちの言動は「いじめ」であることを捉える

森川君のうわさが広まっていった時、
それぞれがどんな気持ちでいたのだろうか？



《他の展開例②（未然防止に重点を置いて）》

順子さんの行動に着目し、道徳的価値に焦点化した展開
ぼくは本当のことを言い出せない。でも順子さんはみんなの前で発言した。

（黙っていても良かったはずなのに…）
順子さんはどうして学級みんなの前で発言したのだろう？

